

船井情報科学振興財団 2014年度 留学報告書 (6月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

ケンブリッジ大学工学博士課程1年目の重本祐樹です。製造業研究所 (IfM) のデザインマネジメントグループに所属し、ものづくりにおけるデザイン学の研究をしています。6月になり、1年の最後の学期も終了しました。前回の報告からこれまで様子を綴らせて頂きます。

【正課活動】

2学期 (Lent Term)、3学期は (Easter Term) には授業はありませんでしたが、私は同じグループの友人と共に IfM の Reading Club を聴講し、産業構造や国際ビジネスのモデル、産業研究におけるビッグデータの取り扱いなどについて勉強、議論をしました。私の研究はデザイナーや消費者に焦点を当てたマイクロ視点なものなので、産業全体を俯瞰するマクロな枠組みには少々苦戦を強いられました。自分の研究をこういった大きな産業システムの一端として活かす事が出来る様になれば良いな、という想いも一層強くなりました。

正課とは少々異なりますが、3月には Cambridge Science Festival という、ケンブリッジ大学の各理系研究所・学部が一般に公開されるイベントもありました。IfM にも地元の家族連れや小中学生に多く訪れて頂き、研究施設内の設備や最新の研究内容、研究されている技術を利用した製品の展示等がありました。その一環として、博士課程院生が一般向けに自身の研究を紹介するプレゼンテーションのコーナーもあり、僕も登壇させて頂きました。発表者にはとりわけ、次の世代の子供たちに、「科学って面白い!」を伝える、というテーマが与えられており、聴衆は小さな子供も含む文字通り老若男女、デザインに対する知識や見方も様々であり、普段の専門家に向けたプレゼンとは異なった視点で自分の研究を見つめ直し、表現を再構成するという、とてもよい機会となりました。

本稿を執筆している6月末には、博士課程一年目の最後の学期も終了し、残す所は8月末に提出の First Year Report の執筆のみとなりました。First Year Report は博士課程一年目の総まとめで、学位取得に向けた研究計画書でもあります。最近佳境となり、指導教官との Supervision やデザインマネジメントグループのグループミーティングの頻度も増え、互いに研究内容について討論やアドバイスをし合いながら研究を進めています。大卒での私の研究関心は、機能設計、ユーザーインターフェイス、意匠整備といった、ものづくりにおけるデザイン概念の分類および体系化、ならびにそれぞれのデザイン側面の持つ潜在的インパクトの測量手法の確立と、測量基準の設定というところに落ち着いて参りました。そして、これらのデザイン概念の明確化および定量化による、デザイン戦略を組み込んだ組織マネジメント、およびデザイナーの役割を基軸とした経営戦略の提案などに発展させていければと考えています。

船井情報科学振興財団 2014年度 留学報告書 (6月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

【課外活動】

Lent Term には、年一度の Vartisty Match というオックスフォード大学との伝統戦が行われ、各部活の大学代表が切磋琢磨しました。私もバドミントン部代表として、敵陣 (& 古巣) に試合に行き参りましたが、残念ながら今年は (も) ケンブリッジの負けに終わってしまいました (バドミントンに関しては、ここ数年オックスフォードが優勢です。) 来年はケンブリッジでの開催なので、是非ともリベンジしたいと思います。試合の後は晩餐会で、それぞれのクラブの会長やキャプテンのスピーチに始まり、お酒の席でのゲームで毎年恒例の退場者 (酩酊のため付き添われての強制帰宅) 数名も出すなど、大いに盛り上がりました。

また、Easter Term にはケンブリッジ大学における一年で一番大きなスポーツイベントである、ボートレースが行われました。私も自分のカレッジのセルウィンカレッジボート部に所属しており、2軍ボートで漕艇しました。レース形式は Bumps Race と呼ばれ、テム川に17艇のエイトボート (8人の漕ぎ手+1人の指揮官の計9名で1艇に乗り込む) を縦に等間隔に並べ (17艇で1 Division、全部で6 Division あります)、スタートの合図と同時に全力で自分たちの前のボートを追いかけ、船体に体当たり (Bump) するか追い抜くかすれば、そのボートと場所を入れ替わり、次のレースでひとつ前のポジションからスタートする事が出来ます。1艇につき1日1レース、4日間に渡り合計4回のレースが行われ、ひとつずつポジションを上げて行き、各 Division の先頭ポジションを目指します (スタートポジションは翌年のレースに引き継がれます)。が、当然自分たちも後ろのボートに追われるので、自分たちが Bump される前に前のボートを Bump する、もしくは規定のコースを漕ぎ切らないと (逃げ切らないと) いけません。漕ぎ手だけでなく応援も非常に盛り上がるイベントであり、学生から同窓生まで、川沿いに腰を下ろして一丸となって自分のカレッジを応援します。レースは時間にしてたった数分間ですが、この瞬間のためにボート部員は皆、一年を通じて厳しいトレーニングと練習を重ねます。それゆえ、レースの昂揚感、レース後の達成感は一塩です (疲労も相当です)。何より、夏の時期の漕艇は本当に爽快で、心地よいです。

【日常生活の徒然】

英国では春から夏にかけて日照時間が長くなり、気候も暖かくなって来ます。ガーデンパーティの季節です。どのカレッジも自慢の庭を所有しており、皆カクテルやおつまみを片手に日光浴、談笑を楽しみます。英国は雨天、曇天の多いせいか、英国人は本当に晴れた日が好きなようで、ランチを庭で食べている姿もよく見かけます。イギリスの庭園には日本のそれとはまた違った美しさがあり、日本庭園をひとつひとつの自然美を洗練された調和へと構成するものであるとするならば、英国庭園は彩豊かな自然を豪華絢爛な様式美に創り上げるものである、

船井情報科学振興財団 2014年度 留学報告書 (6月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

という印象でしょうか。いずれにしろ、花鳥風月を愛でる国民性は共通しており、親近感と愛着の湧く文化です。

もうひとつ、日英の文化的共通項としては、お茶好きな国民であるという部分でしょうか。残念ながらイギリスの水は硬水のため、緑茶の風味は完全に殺されてしまいますので、私は普段こちらでは緑茶はあまり飲みません。(海外で博士課程に在籍する上でやや辛い部分です。硬水で淹れても比較的風味への影響が少ないほうじ茶や番茶などの半発酵茶は、重宝しています。)しかし、やはり紅茶はイギリスで飲むのが美味しいです。文化の中に見られる顕著な生活様式というのは、やはりその国の風土に最適なものとして発展せられて来たのだろうな、と感じます。私の研究所では紅茶、コーヒーは無料で提供されているので、作業中はずっと紅茶片手に、毎日5杯くらいは飲んでいと思います。また、IfMは大変素晴らしい研究所であり、金曜日にはケーキも無料で振る舞われます。現在マネジメント系の博士課程進学をお考えの方が居りましたら、是非 IfM への出願のご一考を。ただ、これにはちゃんとした理由があり、異なった研究グループの教授陣、学生、研究所スタッフ、訪問者など、多様な背景の人々が談話室に集まり、紅茶とケーキをお供に研究の進捗や日々の出来事等をざっくばらんに話し合う、そういうところからイノベーションが生まれる、という IfM の理念に則ったものです。真面目な会議などでも、お茶と糖分があるといいですね。

さて、以上で博士課程1年目の報告を終えさせていただきます。本夏は論文提出と口頭試問を始め、FOSの定例集会、そして何よりも、個人的に一番楽しみにしているオックスフォード大・ケンブリッジ大バドミントン部による日本への合同遠征が控えています。世間はワールドカップ一色という感じですが、実は今年はトマスカップというバドミントン界のW杯を、なんと日本が史上初制覇しました！これは本当にブラジルとスペイン倒してW杯獲るくらいすごいことなんです！（準決勝で中国(=ブラジル)、決勝でマレーシア(=スペイン)相手に金星です！)そんなわけで、バドミントンももっとメジャーになって欲しいと願っている今日この頃です。すみません、若干マニアックな方向に話が逸れてしまいました。

研究に部活に明け暮れている毎日ですが、今後とも温かく見守ってやって頂ければ幸いです。

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。この夏は腹筋割りますΣd(・ω・)

2014年6月末日
重本祐樹
Doctoral Researcher
Design Management Group
Institute for Manufacturing
Department of Engineering
University of Cambridge